

請願書

令和 8 年 6 月 2 日

浜田市議会議長 殿

請願者 住所:浜田市相生町 3773-1

氏名:株式会社コムサグリ

紹介議員 森谷 公昭

件名:道の駅「ゆうひパーク浜田」の次期整備運営事業者選定の白紙撤回及び再公募を求める請願

【請願の趣旨】 現在、浜田市が進めている道の駅「ゆうひパーク浜田」の次期整備運営事業者の選定について、優先交渉権者(株式会社第一ビルサービスを代表とする浜田まちおこし共同企業体)との契約手続き等を一旦白紙撤回し、ゼロベースから再公募のやり直しを行うことを求めます。

【請願の理由】 道の駅「ゆうひパーク浜田」は、長年にわたり浜田市の観光・産業の拠点として、また市民の憩いの場として重要な役割を果たしてきました。しかし、今回の次期事業者の選定プロセスや提示された事業計画には、看過できない重大な問題や矛盾が多く存在しており、このまま 15 年間という長期契約を押し進めることは浜田市の将来にとって大きな不利益をもたらすと考えます。その主な理由は以下の通りです。

1. 出発点からの不自然な対応と信頼関係の崩壊 今回の事業者選定にあたり、市は「公平なプロポーザル審査を行うため」という理由で、現運営会社(ゆうひパーク浜田株式会社)の株式を無償譲渡しました。この唐突な手続きの進め方により、30 年にわたり施設を支えてきた現運営会社との間に強い不信感が生じ、初期段階から関係がこじれる結果を招きました。
2. 実体の不透明な共同企業体(JV)と、根拠に乏しい事業計画 優先交渉権者として選定された共同企業体から提出された事業収支計画は、大部分をテナントからの「家賃収入」に依存しているにもかかわらず、その家賃設定の詳細な明細や根拠が示されていません。自らリスクを負わずテナント任せにする、非常に不透明かつ脆弱な経営計画であると言わざるを得ません。



3. **高額な家賃設定による現テナントの撤退危機** 現在、第一ビルサービス側が提示する家賃条件等を巡り、道の駅の主要テナントである現運営会社(モスバーガーや飲食店等を運営)との交渉が難航し、決裂の危機にあると報じられています。現テナントの撤退は、道の駅の魅力を著しく損なうだけでなく、「現施設の機能維持」という募集要項の前提すら崩れる事態です。
4. **市議会における「反対多数」という重い事実** 本年(令和8年)2月に開催された浜田市議会の産業建設委員会において、この事業計画案に対する自由討議が行われた結果、「賛成3名、反対4名」と、計画の推進に反対する意見が上回りました。委員からは「利益誘導型の施設になる懸念」「議会の意見が反映されていない」「白紙に戻して再策定すべき」といった厳しい指摘が相次いでおり、市民の代表である議会の理解が得られていないことは明白です。

【結論】 現在、優先交渉権者が決定しているとはいえ、上記のように「家賃交渉の難航」「不十分な事業計画」「議会での反対多数」という多くの問題を抱えた状態で、無理に事業を強行すべきではありません。一時的に運営事業者が不在となる空白期間が数ヶ月生じたとしても、将来にわたって禍根を残すような不適切な契約を結ぶよりは遥かにましです。

道の駅「ゆうひパーク浜田」を、真に市民や利用者に愛され、地元事業者が活躍できる施設として再生させるためには、現在の選定結果に固執することなく、勇気を持って一度白紙に戻すべきです。そして、「本当に道の駅を良くしたい」と手を挙げてくれる事業者を、透明性の高い手続きで最初から探し直すことが最善の策であると確信いたします。

【請願事項】

1. 道の駅「ゆうひパーク浜田」の次期整備運営事業者に係る優先交渉権者の決定を白紙撤回すること。
2. 市民や議会の意見を十分に反映した上で、募集要項や選定基準を見直し、改めて透明で公正な再公募を実施すること。